

週報

日本基督教団 翠ヶ丘教会

since 1964

2025 年度年間聖句

「良い土地に蒔かれたものとは、
御言葉を聞いて悟る人」
(マタイによる福音書 13 章 23 節)



どなたにも開かれている定期集会

主日礼拝 毎日曜日 午前 10 時半
子どもの教会 毎日曜日 午前 9 時～10 時
祈 禱 会 各水曜日
○昼の聖書研究祈禱会
(第 3・午後 2 時)
●夕の祈禱会
(第 2、第 4・午後 7 時)

牧 師 井 殿 準
協力牧師 堂 本 陽 子
協力牧師 井 東 昭

〒 252-0312 相模原市南区相南 2-25-65
TEL. 0 4 2-7 4 2-1 5 9 3
FAX. 0 4 2-7 4 2-1 3 9 3
ホームページ: <http://www.midorigaoka.jp>
郵便振替口座 日本基督教団翠ヶ丘教会 本会計
0 0 2 9 0-4-8 0 7 0 7

3198 2026 年 2 月 22 日

礼拝式順序

(受難節第 1 主日)

～東京都民教会との礼拝交流～

	司会者	吉松 泰子	
	奏楽者	伊東 永子	
前 奏			奏 楽 者
招 詞	ヨエル 2 : 12 ~ 13a		司 会 者
讃 美 歌	2 9 4 「ひとよ、汝が罪の」		一 同
聖 書	ルカ 1 2 : 3 5 ~ 4 0 (新 P. 132)		司 会 者
使徒信条	(9 3 - 4 - A)		一 同
祈 禱			司 会 者
讃 美 歌	6 0 「どんなにちいさいことでも」		一 同
説 教	「主人は帯を締めて」	岡崎 岳牧師	
祈 禱			”
讃 美 歌	4 5 8 「信仰こそ旅路を」		一 同
献 金			”
主の祈り	(9 3 - 5 - A)		”
頌 栄	2 9 「天のみ民も」		”
祝 禱			岡崎牧師
答 唱	4 0 - 6 「アーメン」		一 同
報 告			司 会 者
讃 美 歌	9 2 「主よ、わたしたちの主よ」		一 同

- ・当教会では讃美歌 21 と新共同訳聖書を使用しています。お持ちでない方は受付に常備されているものをご使用ください。
- ・立ち座りのご不自由な方はどうぞ着席のままお臨みください。
- ・FM電波による補聴器が用意されています。受付に常備してありますのでご利用ください。

先週の説教要旨
「任されて進む」

(マルコ 4 : 3 5 ~ 4 1)

教会は、この世の海原を進み行く船にたとえられる。そして、信仰者たちは、主イエスが共に乗り込んでくださっているその船に乗れば、神の国にたどり着けると信じて歩んできた。しかし、その船に乗れば、何事もなく安全に人生の航海を続けることが出来るのか？と言えば、必ずしもそうではない。

主イエスと共にガリラヤ湖に行く弟子たちは、未曾有の「激しい突風」に遭い、船が沈みそうになるのを経験し、恐れおののいている。彼らは、船尾で眠る主イエスに腹を立て、「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」と訴える。彼らは、この時、主イエスが突風を静めてくれるとは思っていなかったようだ (41 節参照)。彼らは主イエスの力を信じて起こしたのではなく、腹を立てて起こしたに過ぎない。主イエスは、そのような弟子たちに向かって、そこから一步を踏み出して、「わたしを信じる者とならなさい」と呼びかける (40 節)。

主イエスは、「向こう岸に渡ろう」と目的地を告げ、あとの一切を弟子たちにお任せになっている。弟子たちに期待されていたのは、その委託にこたえて、ひたすらにその使命・目的を果たすことであった。弟子たちの為すべきことは、「信仰とは、神を信じ、すべてを神にお任せして生きることなのだから、水浸しの船の中でもすべてをお任せして皆で一緒に眠ろう」ということではなく、主イエスに示された目的地を目指して、ただひたすらに船を漕ぎ進めることと言えよう。

人生という航海の途上には、自信を根底から揺さぶられ、恐れおののかずにはいられないことが幾つも待ち受けているが、主イエスは今日、聖書を通して、「恐れることはない。わたしを信じなさい。わたしはあなたと共にいる。あなたという舟に確かに乗っている。わたしはあなたの心の内にいるのだ。そのことを信じて、船を漕ぎ続けなさい。わたしの弟子として歩み続けなさい」と我々に語りかけていらっしゃる。この語りかけに聴いて、主と共にいられることを信じて、それぞれ遣わされて行く場所で、黙々と主の弟子の一人として、任されている使命のために励んで行こう。